

地域活性化へ
ネットを活用

NTTと群馬のNPO

NTTと特定非営利活動法人(NPO法人)の桐生地域情報ネットワーク(群馬県桐生市、塩崎泰雄理事長)は二十七日、インターネットを地域活性化に役立てる実験を同日で始めると発表した。地域の特産品の情報などをネットで消費者に提供し、情報交流に役立てる。群馬大学や早稲田大学、群馬県、桐生市なども参加する「KAIN-POPPO」コンソーシアム」を設立。NTTは地元住民らが意見交換できる電子掲示板などをネット上に設ける。ほかにワイヤ生産者や流通業者、消費者が情報を提供する事業なども計画している。期間は五月から来年三月末までで、五百人の参加を見込む。

と生
桐生
NTT
NPO

新しい人脈づくり提案

来月から新通信技術を検証

サーバを介さずにパソコン間で対等な通信を行うP2P技術を使って、産学官と地域が世界で初めて新しいコミュニティを形成する実験が5月1日から始まる。人と人とのつながりは人脈がものをいすが、この実験はNPO桐生地域情報ネットワーク(KAIN、群馬県桐生市、塩崎泰雄理事長)とNTTが共同で行うもので、インターネットを利用して新しい人脈づくり、町づくりなど、21世紀型「新しい隣組」を形成するうえでの技術検証と評価を得るもの。

この実験に向けて産学官地域からなるPOPPOコンソーシアムをKAIN内に設け、NTTのP2P技術「SIONet」を用いて行う。SIONetは意味情報をもとに緩やかな連携、自己増殖的なP2P技術として、自由にコミュニティを形成するのに適してお

り、KAINからのアプローチで今回の実験にうながった。

一方のKAINは「桐生青年会議所のパソコン通が始めたパソコン通信から発展した」(塩崎理事長)。現在はインターネットを介したさまざまな試みを展開している。最先端のネットワークづくりに地元自治体のほか、大学などの協働関係を構築してきた。同コンソーシアムには群馬、早稲田、多摩、東京農工の各大学のほか、群

馬県、桐生市、NPO北関東産学研究会、電子情報通信学会コミュニティ活性化研究時限専門委員会などが主メンバーとして参加。実験は05年3月末までで、7月1日からは一般公募に入り、ワールドワイドのコミュニティ形成に役立つ。